

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
FAX 03(3207)3918
発行人 内藤 留幸
編集主筆 竹澤 知代志
印刷所 株式会社きかんし



瓦礫の中から拾い上げた写真の洗浄・修復

組織的・継続的なボランティア派遣

西東京教区の取り組み

東日本大震災のために甚大な被害を被った地域・教会支援のために、諸教区、地区、各教会、諸団体、そして個人が、なすべき役割を模索し、そして実行している。それぞれの動きを覚え、感謝し、主の見守りを祈る。そうした中で、極めて特徴的な動きを展開している西東京教区の被災地支援を紹介したい。多くのボランティアが、それぞれに大事な役割を担っているが、西東京教区では、教区として組織的・継続的に、これに取り組んでいる。11月末までに、延べ200人を超える参加者が得られ、この動きを支える献金が500万円を超えた。教区としての目標額を1億円と定め、組織的救援募金も始まっている。

4次にあたり、のべ200人以上が！

3月11日以降、西東京教区が教区として組織的に被災地へボランティアを派遣し続けている。今回は、西東京教区副議長であり、西東京教区東日本大震災支援委員会委員長である真壁蔵牧師(相愛教会)に話を聞き、西東京教区の動きを紹介させていた

だ。震災直後の3月14日に行われた西東京教区三役会において、教区として被災地支援委員会を設置しようと

の提案がされ、4月4日に開催された西東京教区宣教委員会にて、東日本大震災支援委員会が正式に設置されたところから、西東京教区としての正式な被災地支援活動が開始されることになる。

宣教委員会は、支援委員会と同時期に、被災地への、教区としてのボランティア派遣と、募金開始を決定した。真壁牧師は、西東京教区

が比較早い時期に、このように教区として動き出すことができた背景には、三つの大きな理由があると語る。一つは、震災直後の3月21日に阿佐ヶ谷教会を会場に行われた、2010年度の西東京教区全体研修会のことである。講師に経堂緑岡教会信徒の写真家、桃井和馬氏を迎えて行われた集

会では、予定を急ぎ変更し、前日まで被災地での取材をしてきた講師の被災地報告が主な内容となり、写真をも多数用いて語られたその講演は、当日集った参加者に大きなインパクトを残した。さらに講演後に、藤盛勇紀総務幹事から、被災地の情報収集や、現地での活動の基礎がSCFに関わる者たちの動きによって

教区内に施設があるが、そのSCFの野田沢主事が、西東京教区の教師として震災10日後より教団から東北教区被災者支援センターに派遣されていた関係で、現地の情報収集や、現地での活動の基礎がSCFに関わる者たちの動きによって

教区にもたらされていたことは、教区の動きを速めた要因であったと語る。三つ目は、過去の震災に



派遣ボランティア(第1次時)、エマオ前で。左端は真壁蔵委員長(教区副議長)。

献金などの余剰金も積み立てられていた関係で、今回具体的な活動においても、会計的にも比較的スムーズに組織づくりが行われたといつのである。これらの要素が全くなければ、現在のような活動が教区として組織的にできていたかどうかは分からないと、真壁牧師は語る。

4月25日から派遣されたボランティアは、基本的に1週間単位でその活動が区切れ、5月末までが第一次派遣、6月27日から7月11日までが第二次派遣、8月1日から9月9日までが第三次派遣、10月24日から11月20日現在、第4次派遣のボランティアが活動をしているという状況である。これまで延べ200名を超えるボランティアが被災地で様々な活動を行った。メンバーは幅広く、教職、

一人のひとと寄り添うことでなし得ること

ボランティアの活動場所は、仙台市内の若林区荒浜地区が中心となっている。活動の内容は様々で、当初は泥出しが中心であったが、時間が経過するにつれ、活動の内容も多少変わってきたということである。現在は、かろうじて使用できる家屋に戻ってきた人たちのための住居の補修なども行っているということであった。

順調に見える働きであるが、荒浜地区での活動は当初は容易なものではなかった。簡単な言うと、現地の人々のキリスト教に対する疑義。ボランティアの見返りに何か求められるのではないかと、キリスト教への改宗を強要されるのではないかと、何の見返りも期待せず、そんな活動が行われるはずはないという反応が強かったそうだ。

そんな現地の人たちの心を必死に解きほぐしたのが、前出の野田SCF主事であった。与えられた賜物を生かし、現地の人々と粘り強い対話を重ね、また、

ボランティアの動きを見せられていく中で、少しずつ理解が得られていったということである。現在では本心に信頼を得るまでになり、当初と比べるとはるかに、現地の人たちの口が柔らかくなっていることを実感すると、真壁牧師は語る。

印象深いエピソードの紹介がいくつかあったが、その中から一つ。ある牧師夫人ボランティアの話である。彼女の出身は東北。東北育ちの彼女は東北弁で会話をすることができ、

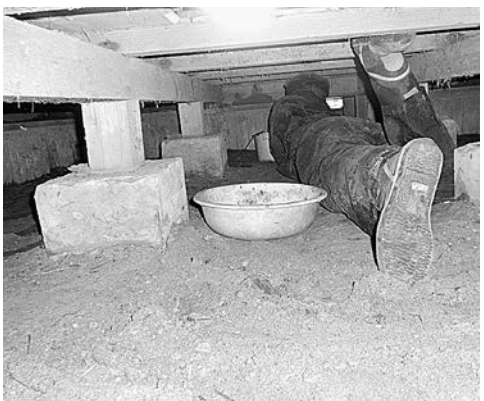
話ができる。若いボランティアは、そこまでの余裕がないのか、方言の壁が大きかったのか、なかなか現地の人々と打ち解けることができなかった。しかし、彼女が東北出身であることを生かし、ある高齢の女性に寄り添い、じっくり話をすることで、現地の人々や若いボランティアに良い感化を与えていた、というのである。ボランティアの動きは何も力仕事だけではなく、そうやって一人のひとと寄り添うことでなし得ることもあると知らされた、と真壁牧師は語る。

これからの課題は、何よりも継続。規模がこれまでよりも小さくなることもあるかもしれないけれども、この活動を息長く続けていくことが何よりも大切だと、真壁牧師は語る。そして、エマオがモットーとしている「どれだけ早く被災地を復興できるかより、どれだけ被災者に寄り添い、気持ちを合わせられるか」を大切にしていこうと語った。

西東京教区は、宣教の三本柱として、(1)積極的に福音伝道をする

(2)諸教会が互助に努め、連帯する教区

(3)社会の課題に取り組む、地域に奉仕する教区を掲げている。



縁の下の働きこそがボランティアの力。床下の泥かき

今回の教区としての被災地ボランティア活動の土台に、この三本柱があるのは言うまでもないことである。(小林信人報)

新制度の設計にまで及ぶ委員会の任

第5回教区活動連帯金検討委員会

第5回教区活動連帯金検討委員会は10月31日(月)教団会議室にて開催された。

まず、全国財務委員長会議と教区活動連帯金配分協議会でなされた当委員会の報告について、伝道資金構想が報告されたことを評価した。

従来の配分方法との変化への危惧が出されたこと、委員会の任務の範囲を超えるのではないかと意見に対し、当委員会の任は教区活動連帯金に代わる新制度の設計にまで及ぶことと今後精密なシミュレーションを行うことが必要であることを確認した。

また、伝道方策検討委員会において議論されている「伝道局設置の可能性」と伝道資金構想との関係については、伝道推進の目標について一致していること、将来は総合的に一致して機能するべきことが話し合われた。

今回は以下の内容について検討を加えた。

①財源と会計処理について
1.パーセント拠出と各教区への3分の1の配分について。現状がそのままパーセント拠出・配分となっていないこと、教区への自動配分についての意見があることについて、伝道推進の趣旨によってパーセントの枠が生かされることが必要とされた。

②教団機構への位置づけについて
教規改正が必要かを含めて、機構図と規則の案を検討することとし、岡本知之委員長と鈴木功男委員が担当することとした。

③現状の分析について
教勢の低下と支援を必要とする教会の増加の予想とそれに伴う負担金増加について協議した。

また各教区の伝道協力推進についてはケーススタディーを行うこととし、担当を高橋和人委員とした。



教団・教区の根幹に関わる難題に向かい合う

多方面に展開する委員会活動

第3回在日韓国朝鮮人連帯特設委員会

に行われた日本基督教団と在日大韓基督教会との「歴史共同研究会」の報告、小林貞雄委員による「韓国3教会との協約締結について」の研究発表を行った。

また、「韓国人元軍人軍属靖国合祀裁判に関心をもち、資料を取り寄せることができた。

「人権教育セミナー」では、6つの分科会がもたれ、島田勝彦、長山信夫委員長とも「外国籍・外国にルーツを持つ子どもたち」の分科会に出席した。13万人に及ぶ5・14歳の在留外国籍の子どもたち、年間2万人を数える日本国籍者と外国籍者間の子どもたちの修学状況の報告、学校の取り組み、課題などが話された。

これは教会においても覚えられなければならないと感じた。改訂入管法に伴う『中長期滞在者のためのQ&A』『非正規滞在者のためのQ&A』『特別永住者のためのQ&A』等、パンフレットを手に入れることができた。

「歴史共同研究会」では在日大韓基督教会名古屋教会金性済牧師が「荒野の100年と希望の宣教―韓国併合100周年を覚えよ―」との講演の報告が小橋孝一委員長よりなされた。

在日大韓基督教会の迎った歩み、これからの課題についての実行的で率直かつ深い内容であり、委員会としても学びを深めていかなければならないと感じている。

次回(1月27日、在日大韓基督教会洪性完総幹事を中心に開催する予定である。

(長山信夫報)



「外国籍・外国にルーツを持つ子どもたち」牧会上の課題

「明治学院ぶどうの木奨学基金」設立

キリスト教教師が扶養する子への奨学金

2013年に創立150周年を迎える明治学院(久世了学院長)に、新しい奨学制度「明治学院ぶどうの木奨学基金」が設立された。

キリスト教教師が扶養する子への奨学金という、今



明治学院チャペル

- 日では希有な性格を持つている。かつては幾多のキリスト教主義学校に、同様な主旨の制度があり、また、授業料免除などの特典があったが、今日では、特定小教を対象とした特典は所轄庁に容認されない。それを補つものであり、日本基督教団の教師にとっては、大いに関心を持つ事柄だ。紙面の限り、詳細をお知らせしたい。
1. 奨学金の目的
明治学院創立150周年記念募金の一環として、2011年に篤志家から寄付された資金等を、その意向であるキリスト教教師もしくはそれに相当する資格を有する者が扶養する子に奨学金を支給することにより、明治学院に学ぶ、キリスト教教師が扶養する子の学業奨励、及び建学の精神にふさわしい人物の育成に資する。
 2. 支給対象者
明治学院に学ぶ、1に該当する者で、所定の審査により適当と認められた者。キリスト教教師とは、日本基督教団、日本キリスト教会、および日本キリスト教協議会加盟の教派団体に属する教師、その他運営委員会が特に認めた教師。
 3. 給付額
年間30万円(自宅通学でない場合50万円)、4年間を上限とし卒業まで。他の奨学金との併給は可能。
 4. 返還義務
なし。ただし、受給年度内に退学、除籍、休学、または懲戒処分を受けた者には、返還を求める場合がある。
 5. 基金運営委員会 略。
 6. 第1回募集
新入生 2012年4月の定められた日時までに、所定の手続きにより基金運営委員会に申し込む。
 7. 審査
2に該当するか確認の上、その経済状況に加え、学業への取り組み、キリスト教活動への参加状況を加味する。
 8. 基金の管理と制度の終了時期 略。
- 以上、説明会資料の抜粋



▼いにしへの都から奪われた燭台を、取り戻す力はなにか、これを追いかけて、その持ち主が変わる度に、部族ごと転居する民がいる。今、ローマをヴァンダル族が襲った時、最早移り住むことが不可能な老人たちが、せめて港でと、燭台の行方を見詰める。▼一行に加えられていた少年が問う。「なぜ、神様はこの略奪を辛抱していらっしゃるのですか?…神は公正で、全能なるものだとおっしゃったではありませんか?なぜ、心正しき者に味方して下さらないのです!」▼祖父はたしなめる。「だまきなさい。神をけがすような口をきくものではない!」途端、ラビ・エリエーゼルは言う。「あなたがまずだまりなさい。この子になに一つわきまえぬ心が問うていることは、わたしどもが、日々、毎時間、自分みずからに問うていることではないのか?この子のたずねているのは、わたしも古い昔のユダヤ民族の問い以外のものではない!」▼ラビは、この問を深く、かく結ぶ。「行きつくその目的地は知らないが、しかし、辛抱よく歩いて行く道だけが、聖なる道である」耳をすまして聞いている少年に、ラビは言う。「これ以上は、もうたずねないでくれ、お前の質問はわたしの知をこえていくからなのだ。時を待つてほしいのだ。いつか、神はおまえ自身の心の中から、返事をして下さるだろう」…S・ツヴァイク『埋められた燭台』みすず書房▼何故と問うことは不信仰だと考える人がいる。そうかも知れない。何故と問うことで、信仰を失う者もいるだろう。しかし、何故と問うことで、己をも見つめ直し、信仰を与えられる者もいる。歩き続け問い続ける者に、神は答えてくださる。

被害状況把握と共に増えていく課題

教団救援対策本部 第6回会議

10月14日、教団会議室にて、教団救援対策本部第6回会議が開催された。開会の後、募金報告として、国



被災地に近づく冬を前にして、気持ちは…

内募金総額が、9月30日現在で1億5,200万4,770円となっていること、海外からの献金総額は、10

月13日現在で1億5,344万3,510円となっていることが報告されたほか、救援対策本部会計についても報告がなされた。

東・東京の各教区における被災教会の現状、補修・再建計画の状況、各教区における対応等の報告および会計報告がなされたほか、911246祈りと礼拝の時(大船渡教会にて、「東日本大震災緊急シンポジウム」等の報告がなされた。

また、具体的な支援(会津放射能情報センターへの支援額決定、福島の子どもの短期保養プログラム

の支援額決定、遠野自殺防止センター活動の支援のための覚書取り交わし、関係諸施設への支援の検討、幼稚園・保育園のエアコン設置費用補助の決定など)について時間をかけて協議した。

さらに、海外献金プロジェクトの取り組みのために「海外献金プロジェクト小委員会」を設置し、4名の委員を選任した。

その他、国内募金達成に向けて11月29日開催予定の教団議長会議において協力を呼びかけること、広報活動を充実させること、「東日本大震災緊急シンポジウム」記録出版の承認、「311246祈りの時」集会開催に向けての検討などを扱った。次回(第7回)は12月2日、教団会議室で開催する。(雲然俊美報)

今年には特に東日本大震災等による被災者の方々を覚えて、その直後から今日に至るまで、多くの祈りがさげられ救援のための働きが続いています。宗教法人立、社会福祉法人立、無認可を問わず、社会福祉事業の働きやその施設も被害を受けました。この事態を受けて、教団や教区、日本キリスト教社会事業同盟を始め、その他の様々な繋がりを通して、病院や社会福祉施設の利用者の皆様に対しても、また地域の皆様に対しても多くの貴重な救援活動が展開されています。ボランティアの皆様も、医療・看護・介護等の専門知識と技術をもった職員の働きも、被災された皆様に喜んでいただいている貴重な働きです。救援のためにご尽力下さいました皆様を覚えて、神さまに感謝します。全国の教会からも「地域の人々の救いに仕える教会の再建を目指して」の主題のもとに呼びかけられている日本基督教団の東日本大震災救援募金に尊い献金と、熱い祈りがさげられておりますことを感謝します。

今年も12月第一主日の「キリスト教社会事業を覚えて祈る日」を迎えます。主イエスが「町や村を残らず回って」なされたことを思い起こします。それは「会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、ありとあらゆる病氣や患いを癒された」ことです。そして主イエスは「群衆が飼いの羊のようになり弱り果て、打ちひしがれているのを見て深く憐れまれ」ました(マタイ9章35・36節)。教えること、宣べ伝えること、癒すことは教会においても地域においても教会が大切にしてきたことです。特に癒すことは教えることと並んで、社会事業としても展開してきました。主のみに沿う社会福祉事業を国や地方公共団体に先んじ展開してきた多くの信仰の先達のご苦労を

とを思い起こします。それは「会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、ありとあらゆる病氣や患いを癒された」ことです。そして主イエスは「群衆が飼いの羊のようになり弱り果て、打ちひしがれているのを見て深く憐れまれ」ました(マタイ9章35・36節)。教えること、宣べ伝えること、癒すことは教会においても地域においても教会が大切にしてきたことです。特に癒すことは教えることと並んで、社会事業としても展開してきました。主のみに沿う社会福祉事業を国や地方公共団体に先んじ展開してきた多くの信仰の先達のご苦労を

社会事業奨励日メッセージ

今年も12月第一主日の「キリスト教社会事業を覚えて祈る日」を迎えます。主イエスが「町や村を残らず回って」なされたことを思い起こします。それは「会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、ありとあらゆる病氣や患いを癒された」ことです。そして主イエスは「群衆が飼いの羊のようになり弱り果て、打ちひしがれているのを見て深く憐れまれ」ました(マタイ9章35・36節)。教えること、宣べ伝えること、癒すことは教会においても地域においても教会が大切にしてきたことです。特に癒すことは教えることと並んで、社会事業としても展開してきました。主のみに沿う社会福祉事業を国や地方公共団体に先んじ展開してきた多くの信仰の先達のご苦労を

2011年12月4日
第37総会期日本基督教団社会委員会 委員 森田恭一郎

EMS(南西ドイツ福音教会)主催ボランティアプログラム

ÖFPに参加して

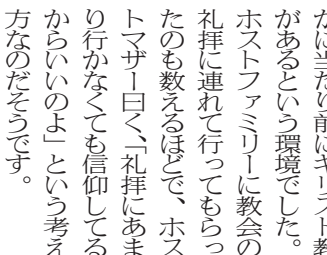
報告▶中川志桜里 (千葉・新松戸幸谷教会員・2011年3月明治学院大学卒業)



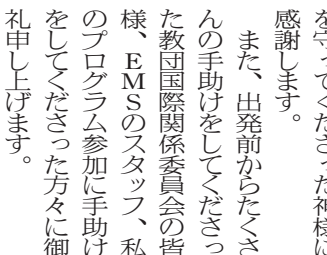
2011年2月15日から7月28日までの5ヵ月半、私はEMS(南西ドイツ福音教会)の主催するボランティアプログラム(Oekumenisches Freiwilligen Program)に参加し、ドイツでの生活を体験してきました。このプログラムは、キリスト教がまだマイノリティである国のクリスチャンの若者が、キリスト教が多数派であるドイツで生活をする中で異なる宗教文化を学ぶことを目的としたものです。教団新報での公募に応募し、面接を経て参加が叶いました。



今回の参加者はインドネシア、南アフリカ、香港、日本からの合計5人で、滞在中私たちは、平日は保育園や学校、教会でボランティア活動をし、週末はホストファミリーと過ごし、2ヶ月に一度はEMS本部事務所で研修があり、他のボランティアやEMSのスタッフと交流を深めました。



私は幼稚園の頃から親に連れられて教会に通うようになりキリスト教というものを知りました。小さいころから生活の中に当たり前にあったせいか、大人になっても信仰の対象としてキリスト教を捉えることができず、教会へ行くことに



もあまり積極的ではなく、自分は信仰が深くないクリスチャンであると思っていた。このドイツでのプログラムに参加させてもらえようになつてからも、自分が本当に日本の代表として行かせてもらっているのだろうかという思いもありました。



しかしドイツへ行ってみると、保育園で歌う歌はほとんどが讃美歌、イースターは家族みんなが集まって祝う行事、中高生の課外活動は教会に付属しているYMCAと、まさに生活のなかに当たり前にキリスト教があるという環境でした。ホストファミリーに教会の礼拝に連れて行ってもらったのも数えるほどで、ホストマザー曰く、「礼拝にあまり行かなくても信仰してるからいいのよ」という考え

共に祈り、支えよう！
Let us pray for and support people and the Church together!

「東日本大震災救援募金のお願い」

教会の再建・補修、地域の復興・支援に向けての具体的な取り組みを日本基督教団として支援していくため、祈りと共に「東日本大震災救援募金」にご協力を下さいますようお願い申し上げます。

記
目標額 10億円(国内のみ)
期間 2011年7月1日～2015年3月31日
振替番号 00110-6-639331
加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31
2011年7月
日本基督教団 救援対策本部長総会議長 石橋秀雄

消息

高竹二氏(隠退教師)
11月10月28日逝去、88歳。岡山県に生まれる。47年日本基督教神学専門学校卒業、同年津山教会に赴任、高倉教会・茅ヶ崎恵泉教会、神奈川教区巡回教師を経て、87年より95年まで二宮教会を牧会し、隠退した。遺族は妻・高戸睦さん。

左上から
▼ハイデルベルクにて、インドネシア(中)香港(右)のボランティアと本人(左)
▼ホストファミリーとハイキング
▼幼稚園の遠足で牧場へ

日本人とは異なる宗教観を知ることができ、少し気持ちが軽くなり、自分の信仰をポジティブに捉え直すことができるようになった。

ドイツ滞在中には、東日本大震災という大きな出来事がありました。日本以外のメディアや人の考えに触れることができ、日本という国を客観的に見るきっかけが与えられました。またドイツ人をはじめ、海外に大切な友達もできました。最後に、今回のドイツ滞在の機会を与え、その日々を守ってくださった神様に感謝します。

また、出発前からたくさんのお手助けをくださった教団国際関係委員会の皆様、EMSのスタッフ、私のプログラム参加に手助けをしてくださった方々に御礼申し上げます。



伝道のためのコミュニティー・サイト

インターネット伝道会

サイトを閲覧された方が教会に足を運び、求道し、洗礼に導かれることを願って『伝道のためのコミュニティーサイト』を公開しました。

※組織と目的

インターネット伝道会は東京教区の自主活動団体である東京信徒会の中に作られました。開設準備の最初から関わってきた13名の有志によって中央委員会が組織され、会長・長崎哲夫牧師（東京山手教会）、書記・愛澤豊重牧師（松沢教会）、財務・鈴木功男兄（目白教会）、東京信徒会代表、事務局長・張田眞牧師（鳥居坂教会）、主事・大三島義孝牧師（碑文谷教会）が選ばれています。

※寄稿・参加

2条に本会の目的が記されています。「本会は、『日本基督教団信仰告白と教憲によって示される福音主義キリスト教』に基づき、キリスト教ポータルサイトを開設運営し、これによってキリスト教を正しく紹介し、広く伝道に寄与することを目的とする」です。教団は合同教会ですから内に幅広い多様性が存在します。しかし、教団信仰告白はその多様性における一致のしるしです。インターネット伝道会は多様な伝統に学びつつ教団信仰告白を豊かに共有しあい、福音伝道の一つの器でありたいと願っています。

※教会紹介とリンク

「各地の教会・諸団体」欄には、日本地図から各地にある教会を探ることが可能です。教団の全教会の教会名、住所、地図がリストアップされ、各教会のHPをリンクしていただくようになっています。リンクに際しては本会の目的に基づいた規約に従っていただきますが、それは、サイトに掲載する信仰内容・教団理解とリンク先の教会との間に齟齬が生じないためです。サイトを見てリンク先の教会に足を運ぶ方々に対して責任を持つサイトでありたいのです。

言うまでもないことですが、この伝道サイトは東京教区のためのものではありません。また、東京教区だけが書き込みを担うのでもありません。本会の目的に賛同してくださる多くの牧師・信徒の方々の寄稿・参加を期待しています。

※寄稿に際しては

ブログやワープロのようにご自分のパソコンから簡単に書き込むことができます。ようになっています。もちろん、画像や動画をアップすることもできます。

ご自分の教会のことやその地方のこと、伝道的な文書、福音を証しするために本や映画や絵画などの紹介、文芸評論なども歓迎です。

また、教団の中には諸団体があり、また、関係学校、関係社会事業がありますが、それぞれ関連に参加していただきたいと願っています。

現実の生きた教会を紹介し、その信仰を明示し、キリスト教についての正しい知識を提供す

※財政その他

ここで調べたら大丈夫という評価を得たいと願っています。

本会は当初、大がかりなポータルサイトを独自に構築・運営する予定で作業にかかっていましたが、諸般の事情からそれは棚上げして、現在はリンク・コストがあまりかからない仕方です。サイトを立ち上げることにしました。それにしても、運営のためには最低年間80〜100万円必要としています。その費用は募金によってまかないたいします。皆さまのご支援をお願いいたします。

なお、本会は日本基督教団公式ホームページのリニューアルに際してサイトのデザインとシステムを提供させていただきました。また、教団事務局の指示に従って管理・運営を担当いたします。

※事典の重要性

ウィキペディア風のキリスト教「事典」を作ることができるようになっています。すでにいくつかの項目が立ち上がっています。信仰と教会に関する語句に関しては、教会生活に則した表現で簡単な説明を試み、その上で、さらに高度な説明ができるようになっていきます。キリスト教史上の人物や事象についても項目を増やしていきたいと願っています。

インターネット上には不確かな、ときには明らかに間違った情報が流れています。私たちの「事典」は正確な情報を提供して信頼を得ることができるようにし、キリスト教のことなら

サイトURL
<http://www.united-church.jp/>

事務局 URL
<http://www.dendonet.blogspot.com>

◎口座
みずほ銀行 早稲田支店
普通 06812248084
「日本基督教団東京教区」
（振り込みに際しては「インターネット伝道会」とお書きください）
（張田眞報／鳥居坂教会牧師）



相馬 洋子さん

一つところに留まりながら



1939年、東京生まれ。碑文谷教会員、全国教会婦人会連合文書委員。

相馬さんが教会につながったきっかけは、お母さんである。父がニューギニアで戦死した。母は夫の戦死をなかなか受け入れられなかった。母に生きる道を開いたのは、クリスマスチャンであった母の妹、相馬さんの叔母さんが母を教会に誘ったことにある。最初、教会の敷居は高く、教会員宅で開かれていた家庭集會に出席した。牧師の語る言葉に励まされ、父を失った娘3人を連れ碑文谷教会の礼拝に出席するようになった。相馬さんが小学校3年生のときである。

5年生のとき、母が受洗するのにつれて相馬さんも洗礼を受けた。受洗の自覚も、信仰告白の志も無かった幼児洗礼であった。相馬さんが改めて信仰を自らに問うたのは高校2年生のとき。当時、教会が越谷教会と合同で開催していた夏のキャンプで思いがけず、これまでの教会とのつながりを証したことが背を押した。その年のクリスマスに信仰告白をした。それ以来ずっとこの教会の食卓から聖餐に与ってきた。

大学卒業後、国語の教師としてクリスマススクールに奉職した。小学校以来すべて公立学校で育ってきた相馬さんにとって、キリスト教学校の教育は新鮮で、信仰が育てられた教会との繋がりを覚える仕事だった。子育てのため一旦は離職したが、教師としての楽しさは忘

れられず、講師として再び教壇に立った。

短歌を嗜んだ母譲りの、本好きの、国語教師としての言葉への感覚は、現在の全国教会婦人会連合文書委員の働きにも生かされている。毎月発行される『教会婦人』の、おもに校正を担っている。また一委員として各地に取材にも赴く。今回の震災取材では婦人教職が牧する福島県にある教会を訪ねた。

相馬さんは「波風のない、取り立てて特別な教会生活ではありませんが」と言うが、60余年にわたって一つの教会で礼拝生活を続けてこられたことにこそ大きな恵みがある。

救援のために喜んで献げよう

新共同訳聖書では、ローマの信徒への手紙12章1〜8節は『キリストにおける新しい生活』という小見出しが付けられて、神への献身である真の礼拝を守るようにと勧められています。端的に言えば、主キリストを信じて新しくされた者の生活の基本は生涯を神に捧げる喜びにあり、それが主日礼拝を中心据えた教会生活であるというわけです。

さて、その献げる喜びの具体的な証しとして、現在、日本基督教団では東日本大震災救援対策本部を設置し、被災教会会堂再建をはじめ、2015年3月末までにはなんとかして目標額が達成されるようにと願っています。本部会議での報告によると、被災3教区に直接献けられた献金も多く、それを祈りつつ更なる尊い献金をようしく。 (教団総幹事 内藤留幸)